

■ぶらり名所探訪■

KURODA

黒田家は、かつて足利の一族で、初代・義次の時に改名しました。八代・九郎太夫義則の時(永禄年間・1558～1570年代)にこの地に移り住み、江戸時代には、旗本・本多日向守の代官職を命ぜられて四千石程度の領地を治めました。十八・十九代では弓道に長じ、門弟300名を集め、俳諧では「東海道人物志」に名を残しています。明治維新後は、小笠の発展に貢献し、旧・平田村長、旧・小笠町長を歴任、大きな功績を残しています。

昭和48年、江戸時代末期の代官屋敷の佇まいがよく保存されているとされ、長屋門と母屋が国指定重要文化財となり、平成5年には米蔵・東蔵・濠を含めた、屋敷全体が追加指定されました。母屋は現在も住居として使われており、立ち入りに制限がありますが、2月上旬から3月上旬の梅の季節には庭園を開放して、梅祭りが開かれています。



代官屋敷を囲む水濠と舟つき場



- TEL/0537-73-7270
- アクセス/東名菊川ICから車で15分

曹洞宗 國源山

正林寺 しょうりんじ  
Shōrin Temple

文明8年(1476年)、今川義忠は横地氏・勝間田氏を討取った帰り道、塩買坂に差しかけたところ、横地氏の残党に不意をつかれ討ち死にしました。

その後、永正14年(1517年)に義忠の子・氏親により、義忠戦死の地・塩買坂の近くに、菩提を弔うために「昌桂寺」を建立、後に「正林寺」となりました。現在、正林寺には義忠の位牌と五輪塔・家臣の墓があります。また、本堂には寺所蔵の「香を聞く義忠像」や文久2年(1862年)に雅号・月花園が描いた四枚一組左右一対の見ごたえある襖絵があります。



塩買坂

かつて塩買坂は相良から掛川、秋葉山へと向かう塩の道「秋葉街道」の難所でした。塩や魚を運ぶ街道だったため「塩買坂」と呼ばれるようになり、近年では荷車などが通り「くるま坂」と呼ばれていたこともあります。往時の人々が歩いた難所をぶらり歩いて思いを馳せてみては…。



雅号・月花園が描いた襖絵



香を聞く義忠像



今川義忠の墓

曹洞宗 龍昌山

安興寺 あんこうじ  
Ankō Temple

永正11年(1514年)に雪窓鳳積禅師によって創建されました。

境内にある六角堂は京都の六角堂を模して、寛政9年(1797年)に15代住職が宮大工・出野利八に建築を依頼。棟梁は京都まで出向いて修業し、建立したといわれています。正面に聖観音像を安置し、共に西国三十三番観音が祀られており、中心部の経蔵が360度回転します。



夕日を浴びた六角堂



※六角堂の観音像の御開帳は、毎年八月のお盆の一日のみとなります。

三十三観音像